

令和3年 **1**月の**思いやり**通信

目次

- (1)  省エネ住宅に上位等級 国交省が新設検討 脱炭素へ新基準
- (2)  再生エネ「50~60%」 政府検討 2050年、海外水準を目安に
- (3)  脱炭素 2050年へ政府計画
- (4)  再生エネ 5割超明記 政府、グリーン成長戦略決定
- (5)  グリーン成長戦略 14分野の支援手厚く

エコライフ - エクステリア



- (1)  **省エネ住宅に上位等級 国交省が新設検討**

脱炭素へ新基準

- *国土交通省は省エネルギー住宅の新しい基準をつくる検討に入ります。
- *4等級ある断熱の性能表示制度を改め、より高性能の5段階目を設けます。
- *2021年春から、省エネ性能が高いほど家電などと交換できるポイントを多く付与する制度も始めます。
- *省エネ住宅は、全体で5000万戸の住宅のうち約1割にとどまります。
(2020年12月13日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

- (2)  **再生エネ「50~60%」 政府検討**

2050年、海外水準を目安に

- *政府は2050年時点の発電量に占める再生可能エネルギーの比率を「50%~60%」に高める案を検討。
- *欧州諸国などはすでに再生エネの比率が4割近くなっています。
- *英国は「再生エネ65%」などの目標数値を示しています。
- *日本の電源構成に占める再生エネの比率は、2019年度の速報値で18%。
ドイツは42%、英国39%と高い水準。
- *日本は火力の割合が8割近くに。
(2020年12月21日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)



(3) 脱炭素 2050 年へ政府計画

洋上風力 4500 万キロワットに 原発新型炉を開発

*2050 年の脱炭素社会の実現に向けた政府計画の原案は、洋上風力や水素など 14 の重点分野を設定。

*自動車では、2030 年代半ばまでに軽自動車も含めた新車販売を E V やハイブリッド車 (H V) といった電動車にします。

*エネルギーでは、特に洋上風力に重点を置きます。

2040 年までに最大 4500 万キロワットと、原発 45 基分に当たる量を目指します。

*電動化の拡大などで 2050 年には、電力需要が現状より 3~5 割増えると見込みます。

*電源に占める再生エネの割合は、2050 年に 5~6 割と現状の 3 倍前後、二酸化炭素の回収をセットにした火力と原子力は計 2~3 割、水素とアンモニアで計 1 割としました。

*原子炉と比べ安全性が高いとされる小型原発の開発で国際連携を進めるとし、2050 年に向けて利用を継続する方針。

*住宅や建築物は、新築平均で 2030 年までに排出量ゼロを目指します。

(2020 年 12 月 24 日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

(4) 再生エネ 5 割超明記 政府、グリーン成長戦略決定

2050 年に脱炭素実現

*政府は、温暖化ガス排出量を 2050 年に実質ゼロにする工程表をまとめました。

*再生可能エネルギーの比率は、今の 3 倍の 50~60% に高める目安を示しました。

*再生エネの導入で先を行く欧州主要国は、既にドイツが 42%、英国が 39%、スペインは 38%。

*住宅・建築物は、2030 年までに新築平均で実質ゼロとします。

*自動車は、2030 年半ばに全ての新車を電気自動車 (E V) などの電動車にします。

*電動化が難しいバスやトラックなどの商用車は、2021 年夏に結論を先送りしました。

(2020 年 12 月 26 日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

(5)  **グリーン成長戦略 14分野の支援手厚く**

住宅 2030年に新築の排出ゼロへ

- *国内の温暖化ガス排出量の15%は家庭から。
- *新築住宅の排出量を2030年にゼロとする目標。
- *ZEH：家庭で使う電力を太陽光発電などの再生可能エネルギーで賄い、温暖化ガスの排出量を実質ゼロにする住宅。
- *ZEHの初期費用は戸建ての場合、通常よりも200万～300万円ほどかかります。
- *高性能建材のコスト低減や木造建築物の普及拡大、窓ガラスなどの性能評価制度の拡充などを新戦略に盛り込みました。
- *ビルの壁面に設置できる次世代型太陽電池の実用化を急ぎ、導入を拡充します。



成長が期待される14分野

エネルギー産業	洋上風力	2040年までに最大4500万キロワット
	アンモニア	燃料の20%に混ぜる火力発電を2030年までに展開
	水素	2050年導入量を2000万トン程度に
	原子力	着実な再稼働と次世代炉の開発
家庭・オフィス関連	住宅	2030年までに新築の排出量平均ゼロ
	資源循環	バイオマスなど活用
	ライフスタイル	Co2削減のクレジット化やスマートシティを全国で推進
輸送・製造業	自動車・蓄電池	2030年半ばまでに新車販売で電動車100%
	半導体・情報通信	デジタル化によるエネルギー需要の効率化
	船舶	2050年までに燃料を水素やアンモニアに転換
	物流	港湾の脱炭素化、co2排出の少ない輸送に
	食料・農林水産	2050年までに農林水産業のco2排出ゼロ
	航空機	2035年以降に水素航空機を本格導入
	カーボンリサイクル	大気中からのco2直接回収の2050年実用化

(2020年12月26日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

エコライフ - エクステリア

★植栽

*家の南側・西側に落葉樹を植えると、夏は葉っぱが生い茂って強い日射を防ぎます。

*冬は落葉し、太陽の光が家の中に届きます。

*植栽を上手に使うことで、季節による太陽の光の扱い方を変えることができます。

★ルーバー

*ルーバー：羽板と呼ばれる細長い板を、枠組みに隙間を開けながら平行に組んだもの。

縦型のものと同型のものがあり、窓の外や外壁などに付けられます。

素材はアルミや木のほか、ポリカーボネートなどがあります。

羽根の部分が固定されているタイプと、可動式のタイプがあります。

*取り付けの角度や間隔によって雨や風、光などを調節できます。

*外からの視界を遮断する役目もあわせ持ちます。

★軒・庇

*軒・庇があると、雨が降っても窓を開けっぱなしにできますし、夏は太陽を遮り、冬は家の中に取り込むことができます。

*日射遮蔽には必須の要素ですが、出過ぎた軒・庇は冬の日射も遮ってしまいます。

*適度な軒・庇の出は、窓の高さの1/3～1/2が良いといわれています。

(高垣吾朗氏著「夢を叶える家づくり」より引用・抜粋)

